

令和5年度（2023年度）第2回北海道入札監視委員会 開催結果

日時 令和6年（2024年）1月18日（木）10:00～
場所 道庁本庁舎7階 第1中会議室
（対面及びWeb会議の方法により開催）

（委員会次第）

- 1 開 会
- 2 挨拶
北海道総務部次長兼行政局長 黒澤 政之
- 3 議事
 - (1) 令和5年度（2023年度）入札契約執行状況（令和5年9月末）について
 - (2) 令和5年度（2023年度）北海道入札監視委員会現地調査結果について
 - (3) 抽出審議 留萌振興局留萌建設管理部発注案件（非公開）
- 4 閉 会

令和5年度（2023年度）第2回北海道入札監視委員会 出席者名簿

委員長	大久保 誠
委員	岡田 美弥子
委員	清平 秀幸
委員	鈴木 洋之
委員	水野谷 幸夫

※委員は五十音順、敬称略

関係部局出席者

所 属	職	氏 名
農政部農村振興局事業調整課	事業調整課長	神田 吏
//	技術管理担当課長	佐々木 悟
//	主幹	松本 宏樹
//	課長補佐	上山 賢一
//	主査	黒部 将仁
水産林務部総務課	総務課長	藤原 啓裕
//	課長補佐	佐藤 康弘
//	管理係長	芳賀 浩之
建設部建設政策局建設管理課	課長補佐	中野 啓太
//	主幹	織田 真一
//	課長補佐	猪又 博高
//	工事管理係長	長澤 賢志
//	主査	國塚 信武
//	主査	梶浦 敏
建設部建築局計画管理課	計画管理課長	太田 禎章
//	課長補佐	下佐 充由
//	契約係長	葛西 智之
出納局財務指導課	財務指導課長	阿保 恵一
//	課長補佐	浦濱 昌永
//	総括主査	福地 康時

所 属	職	氏 名
留萌振興局留萌建設管理部 建設行政室入札契約課	入札契約課長	濱田 祐悟
//	主幹	小野寺 道幸
//	予算係長	今野 郁弥
//	入札係長	高木 亮昌
留萌振興局留萌建設管理部 事業室地域調整課	地域調整課長	菅原 剛
//	主査	藤木 寛生
留萌振興局留萌建設管理部 事業室道路課	道路課長	山田 学
留萌振興局留萌建設管理部 事業室治水課	治水課長	須川 一規
留萌振興局 総務課	主査	桐木 篤司

事務局

所 属	職	氏 名
総務部	次長兼行政局長	黒澤 政之
総務部行政局改革推進課	改革推進課長	木村 重成
//	課長補佐	小倉 知恵子
//	係 長	坂本 誠一
//	主 事	藤樫 悟
//	主 事	鈴木 峻平

令和5年度（2023年度）第2回北海道入札監視委員会議事録

1 開会

（事務局：小倉補佐）

予定の時間となりましたので、ただいまから令和5年度第2回北海道入札監視委員会を開催いたします。開会にあたりまして総務部次長兼行政局長の黒澤よりご挨拶申し上げます。

2 挨拶

（事務局：黒澤次長兼行政局長）

令和5年度第2回入札監視委員会の開会にあたりまして、一言ご挨拶申し上げます。

委員の皆様には大変お忙しい中、またお足元の悪い中ご出席いただきましてありがとうございます。また日頃から道行政に対し、ご理解、ご協力をいただいておりますことに改めて御礼申し上げます。

本日の委員会は、令和5年度9月末の入札契約の執行状況、及び昨年10月に委員の皆様にご報告をさせていただくとともに、委員の皆様より抽出いただいた工事について、審議をいただく予定となっております。

北海道における入札及び契約の過程や、その透明性の確保のため、活発なご審議をお願いいたします。

道といたしましては、皆様のご意見をもとに、公共工事の入札契約の適正化に努めて参りたいと考えておりますので、委員の皆様におかれましては、様々な観点からご意見、ご提言をいただきますようお願い申し上げます。開会にあたってのご挨拶とさせていただきます。

よろしくお願いいたします。

（事務局：小倉補佐）

それではこれからの議事の進行につきましては大久保委員長にお願いしたいと思います。なお、大変恐縮ではございますが、黒澤は他の公務のため、ここで退席させていただきます。よろしくお願いいたします。

3 議事

（1）令和5年度（2023年度）入札契約執行状況（令和5年9月末）について

（大久保委員長）

本日の議題、議事は3つになりまして、1つ目が2023年度の入札契約執行状況、それから2つ目として北海道入札監視委員会の現地調査結果について、最後が抽出審議として、留萌振興局留萌建設管理部発注案件の議案について審議をいたしますが、これについては非公開となりますので、2つ目の議題が終わりましたら、傍聴の方の退席をお願いいたします。

それでは、1つ目の入札契約執行状況に関して、事務局の方から説明をお願いいたします。

（事務局：藤樫主事）

それでは入札契約執行状況についてご説明させていただきます。入札契約執行状況の報告に先立ちまして、配付資料の説明をさせていただきます。

資料1-1及び資料2につきましては、報道機関及び関係部にも配布している資料です。資料1-2、1-3の一覧につきましてはページ数が多いため、必要に応じて画面に表示する形で進めさせていただきます。また、資料3につきましては非公開としている審

議の資料のため、委員と関係部にのみ配布しております。

なお、配布資料の一部に誤りがありましたので、修正箇所を口頭にて説明させていただきます。まず、資料1-1、3ページになります。いちばん左のグラフ、農政の落札率100%の案件のところになります。こちらが2件ということになっておりますが、こちらは1件が正しい数値でございます。その上の、100%未満の件数が1件増え、19件となります。この修正により、再集計を行いますと平均落札率が若干減少することとなります。(開催後注記：再集計の結果、資料記載の落札率に変動なし)

修正後の資料につきましては、委員会終了後に当課のホームページにて公表させていただきます。資料の修正につきましては以上となります。

それでは、資料1-1の令和5年度入札契約執行状況に基づきまして、ご報告いたします。いずれの数値につきましても各年度における9月末現在の数値を記載しております。

まず資料1-1、1ページをご覧ください。1の一般競争入札の実施率についてですが、こちらは一般競争入札と指名競争入札を合わせた競争入札の実施件数に占める一般競争の入札の割合を整理したものでございます。令和5年度の一般競争入札の実施率は、農政部、水産林務部、建設部のいわゆる発注3部におきましては95.2%、その他部門を含めた全体の実施率は95.7%となっております。左側のグラフでは令和元年度から令和5年度の発注3部の区分毎及び発注3部計の推移を、右側のグラフには発注3部以外のもの、契約を含めた全対象部局の推移を掲載しております。棒グラフで示してありますとおり、全体としてはやや増加傾向で推移しております。

2ページに移ります。競争入札における平均落札率の状況ですが、こちらは、一般と指名を合わせた工事の競争入札全体における、平均落札率を整理したものでございます。

工事におきましては、令和5年度の発注3部の平均落札率は、95.3%、その他部門を含めた全体の平均落札率は95.0%となっているところでございます。先ほどと同様、発注3部及び発注3部以外の契約を含めた全部局の推移を掲載しておりますが、工事の平均落札率は過去5年間、全体としてほぼ横ばいで推移しております。

3ページに移ります。こちらは令和5年度上半期における発注3部の部門別落札率を、1%刻みで棒グラフにしたものとなります。次の4ページに移りまして、一番右側にあります、発注3部全体では、落札率98%未満の階層にピークが見られ、概ね97%前後での落札が多くなっております。

次に5ページをご覧ください。こちらは、委託業務の競争入札における委託の平均落札率を整理したものでございます。

委託につきましては、発注3部の平均落札率が93%、その他部門を含めた全体の落札率につきましても93%となっております。こちらにつきましても発注3部及び発注3部以外の契約を含めた全部局の推移を掲載しておりますが、全体としてはほぼ横ばいで推移しております。

次の6ページと7ページになりますが、こちらは先ほどの工事と同様に、令和5年度上半期における発注3部の委託業務の平均落札率を、1%刻みで棒グラフにしたものとなります。委託業務に関しましては、7ページの右側にあります。発注3部全体では、落札率94%未満の階層にピークが見られ、概ね落札率93%前後での落札が多くなっております。

続きまして、8ページに移ります。8ページの一般競争入札における平均落札率の状況ですが、こちらの資料は工事の一般競争における入札を行ったもののうち、総合評価落札方式による落札率と、通常のいわゆる自動落札方式による落札率を比べたものになります。

発注3部における令和5年度上半期では、総合評価方式が「95.2%」、通常の一般競

争入札については95.8%となっているところでございます。

資料後半の1ページから4ページは、参考資料となっております。

ただいまご報告いたしました入札契約状況を、発注部門別、発注機関別にまとめた、令和5年度9月末現在の実績が載っております。

具体的な数値等の詳細につきましては割愛させていただきますが、参考1ページにつきましては、発注3部関係の工事に係る部門別、契約方式別の発注件数や平均落札率を載せております。参考の2ページにつきましては、工事の各発注機関別の発注件数と落札率を記載しております。次の参考3ページにつきましては、発注3部関係の委託業務に係る部門別・契約方式別の発注件数や平均落札率を載せております。参考4ページにつきましては、委託の各発注機関別の発注件数と落札率を記載したものととなります。

説明は以上でございます。

(大久保委員長)

ありがとうございます。今の説明に対してご質問などある方いらっしゃいますか。鈴木委員お願いします。

(鈴木委員)

何点かお願いをします。まず、どうなっているのかなと思ったのが4ページ目の競争入札における平均落札率の状況という事で一般と指名を合わせて表示されている。これ分けたらどうなるんだろうねというのが改めて思ったことが1点。もう1点が8ページ目のところで、総合評価と通常のものとの落札率の比較ということで大体で良いんですけども、落札率ということは、価格に対して何%かというと思いますので、これを見ると令和元年度については総合評価の方が95.8%と高くなっている。高い価格である程度落とされていると。それがだんだん逆転しているような形になってしまふ。令和5年度になると95.2に対して95.8、微々たるものかもしれませんが。数値では微々たるものかもしれませんが、総合評価が機能しているというふうな判断をしていいのかなという疑問があるなと思いました。技術の高いところが高い価格でも落とせるよってというような大きなメリットがあるはずだと思うのですが、この結果を見ているとだんだんそれが逆転起こしてきてしまっているという事で、これをどう解釈したらいいのかなというのが2点目でございます。以上2点、1点目の方はまあ分かればということで2点目の方お願いできればと。

(事務局：藤樫主事)

まず1点目の質問についてですが、令和5年度につきまして参考資料に1ページのほうに各区分と方式別、分解したものを載せております。2つ目の8ページの、

(大久保委員長)

いや、まずその1点目、先生重ねてもう1回、質問を言ってもらえますか。

(鈴木委員)

一般と合わせて出されている。合算で出されているのですね。これ出さない、一般と指名をなんで合わせたのか、なんで合わせた数で出されているのかということ。逆の言い方をするとこれ分けたらどうなるのかな、どういう違いができるのかなというのがもし分かればという。

(事務局：小倉補佐)

過去5ヶ年のものについては手元にその資料がないのでご説明はできないのですが、令和5年度の分につきましては、先ほど言ったとおり参考資料1のところですね、一般競争入札と指名競争入札それぞれに分解したもので落札率を記載している資料を添付しておりますので、こちらの方をご覧くださいませとですね、平均落札率は下段になりますので、括弧書きの中に入っているものですね。発注3部の計ですと、一般競争入札が9

5. 5%、指名競争入札が91.4%というふうになっております。

(鈴木委員)

分かりました。今のこのデータを見て、なにを判断すればいいのかなというのが今ひとつ見えてこなかったのが、その辺の議論の焦点がもうちょっと分かると良いなというふうにした次第です。

(事務局：小倉補佐)

承知しました。

(大久保委員長)

それから2つ目の点。

(事務局：藤樫主事)

はい。2つ目の点、8ページに関係する総合評価と通常方式の比較についてですが、こちらについては建設部さんお願いしてもよろしいでしょうか。

(建設部)

建設部です。建設部の意見になりますがよろしいでしょうか。今、落札率のお話だったのですが、細かな検証を行っていないような状況でありまして、この落札率のみを比較して総合評価の効果というところの把握については、現時点では困難ですが、くじ引きの発生率などを考慮しますと総合評価の効果はあるものと考えております。

ただ、先生がおっしゃいますとおり、令和元年度では95.8と総合評価の方が高かったという事に対して、技術的評価の視点というところは、毎年改正を行っております。ここがマンネリになってしまいますとやはり落札率が高くなっていくという傾向がございますので、こうならないような形で改正はしているところでございます。ここの検証も含めて今後引き続き検証して行きたいと思っております。

(鈴木委員)

今お話にあったように、評価の仕方もしくは、その課題の出し方、というところで見直しを常にしていかなないと、意味のないものだと思っております。そうしないと業者さんもそうだし発注者側も技術の向上というところと繋がらないだろうと。やっぱりこういうところのデータをちゃんと見ながらこれ改善していくような形で、継続的に続けていただけたらいいのかなと思います。

(大久保委員長)

他にご質問のある委員おりませんか。清平先生お願いします。

(清平委員)

委託の落札率が載っている7ページで、94%未満のところは51.1%と非常に高い数値が入っているのですが、なんかここに集中する理由ってなんか分析されたりしているのか、もし分かれば教えて欲しいなと思ったのですけれど。

(事務局：藤樫主事)

委託の落札率が93%。

(大久保委員長)

94%。

(事務局：藤樫主事)

94%未満のあたりに。

(大久保委員長)

半数以上になっているということで。

(清平委員)

94%未満のところは、まあそうですね土木と多分農政が半数以上超えているような

ですけども、なんかその理由というか、なぜこういう傾向になるのかというのがもし分かれば。

(事務局：藤樫主事)

農政部まずは、94%付近に落札率が、ピークが出る理由として考えられることをご回答いただければと思います。

(農政部)

はい。農政部です。農政部、例年大体同じような数字で推移しておりまして、工事は大体97、委託は93の付近で大体落ちるような形になっています。結果ですので、想像でしか答えられない部分はあるのですが、委託に関してはですね、人件費に占める割合が高いという面と工事に関しては資材の影響があるということもありまして落札率が委託に比べて工事の方が高くなっているというような傾向かなというふうに考えております。94付近というのはちょっと結果でしかないかなというところではあります。

(事務局：藤樫主事)

建設部さんのご意見としてはどのようなものになりますでしょうか。

(建設部)

建設部です。建設部も同じように工事と比較すれば委託につきましては最低制限価格付近での競争が激しい中、やはりどちらかという工事と比べて資材価格の高騰とか人件費の影響を受けないものだったり、下請け構造がない中で自分たちも経常利益ですとか、人材配置を鑑みての積算がされていると思いますので、そういった中でこのあたりの数字が多いのかなと。今言ったとおりなぜ94が突出しているかというのは、ここでは具体的に把握はしておりませんが、工事と比べるとこのようにピークがあるというのは、積算等の考えによるものと思われる。

(岡田委員)

今の件でよろしいですか。部門によって落札率が集中しているところと、落札率に幅がある部門があるのですが、その原因は業界の差なのですか。こういうふうにはばけるところと集中するところとが出てくるっていうのは、いつも同じような傾向なのか、それともたまたまこの時期にこういう結果になっているのか。部門間の比較をされているのであれば、落札率の違いが出てくる要因を教えてくださいと思います。

(大久保委員長)

今のでいうと例えば3ページ目の工事の落札率ベースでは、水産の方が93~99、で、98に極めて多くなっていると。農政の方は90~100。林務も90~100と。これはあの90%台でということと同じようなものなのですが、土木に関しては89というものもあると。比較的工事ではそれほど差は無いのかな、部門別に差が無いのかなと思いますが、委託に関して言うと、今岡田委員が指摘されましたように例えば水産であれば、79%、80%、で中間が無くて90の若干下から始まって、農政林務について言えばほとんど90の中央値くらいのところで、最後7ページ見ると建築の方ではこれはすごくバラエティで、77%~100%と幅広くあると。ですからこういう特に建築と水産林務でこれだけ違うというのは何か。これは特に委託に関してなんですけども、先ほど委託で言うと人件費の部分がというようなお話があったのですが、これ見て何かお気づきになるような、ものがあるかということで先生よろしいですね。

(岡田委員)

そうです。

(事務局：藤樫主事)

水産林務部さんお願いしてよろしいでしょうか。

(水産林務部)

はい。水産林務部でございます。水産林務部でいいますと、委託に関しては水産が94～95%で、林務では94%というところにピークが来ているというふうでございます。こちら辺に来ているという理由に関しては先ほど各部さんがおっしゃられた内容と同じような答えになるのかなと思いますが、ここで特に6ページのところにあります、水産の委託で79、80%とちょっとイレギュラーといいますが、先ほどの傾向から違う数字が出ているということについての理由でございますけれども、これについてはこの工事が既存の測量データ、これを基に工種工法等を決定する土木設計の発注件数ということになっておりまして、こちらは、過去の傾向を見てもこういった工事に関しては80%未滿で落ちているというところが多い傾向にございまして、それが違いということで。ただ例年こういうふうな形ではあります。

(大久保委員長)

設計ということであまり例えば、人件費がかからないとか、そういうところが影響して。

(水産林務部)

そうです。既存のデータを活用しているという部分があるので、やはり人件費の部分で、こうして競争できるということで入れているのではないかとというふうに推測されます。

(鈴木委員)

ちょっと気になったのが何%というふうに、落札に何%って表示されてるんですけども、いわゆる低入価格っていうのは、一番底の価格っていうのは何%くらいになっているのですか。

土木に関して言うと委託っていうところがある程度一山になるってなんとなく想像がつかなくもないと。ただ工事に関しては土木に限らず二山出てくる、この二山出てくるっていうのは何なのだろうかと。もしかするとギリギリをかなり無理してやっているのが90とか低い方の山で、一般的なのが大きい山なのかなと思ったのですが、90とか70とかっていう数字で言うといまいちピンと来ないんですけど、低入に対してどれくらいなのかなというところが気になりました。もしすぐ分かれば教えていただけたらなと思います。

(事務局：小倉補佐)

最低制限価格だとどこらへん、何%くらいになるのかというご質問ですよね。

建設部さんの方で何か、まあそれぞれの工事毎に価格違うとは思いますが、最低制限価格算出した時に予定価格に占める割合というか、落札率的にはどこら辺くらいになるとかって何かおわかりになりますでしょうか。

(大久保委員長)

お答えできますか。もし今できなければ、後日で結構ですから。

(岡田委員)

先ほどの質問の意図ですけど、各部門でそれぞれの業界の特徴によって出てくる結果が違うのは理解できるんです。ただ、部門毎に共通するような要因もあるのかなというふうにも思いますし、各部門毎の分析はすごく丁寧にされていると思うんですけど、部門間を比較したときにこちらの部門のこういう要因はこっちにも当てはまるんじゃないのかっていうようなそういうような検討がされているのか。もしあまりされてないのであれば、そういうことも必要なんじゃないかと思います。制度の改善のための分析です。全体的な分析を行いながら、それらの情報を交換して進めていただきたいというのが質問の意図でした。以上です。

(大久保委員長)

先ほど委託で建築は幅広いところで落札が出てくるんですけど、これについては何か言えるようなことございますか。

(建設部計画管理課)

建築の場合ですね、建築という括りになっていきますけど、建築、電気、管路のようなそれぞれの設計事務所がありまして、比較的建築の方が、数が多いものですから競争性が働いて、安くなる。設備系の設計事務所とか業者っていうのはですね、やっぱり札幌に偏っていますね、地方には1社しかいないとか、そういうところがあってですね、あまり競争性が働かないと。数が少ないこともあって、何回も繰り返し同じ業者が参加してくるような状況になって高い金額でないと受注できないみたいな、まあ業者の規模にもよるんですけど、そういったこともあってですね、例えば設備系は少し高い金額で入れてくる。建築系は競争性働くので、安い金額で入れてくるといったような、いろんなばらつきが出てきてですね、全てがそれに言えるというわけではないかもしれませんが、そういったことも考えられるのかなと思っています。

(大久保委員長)

これをもう、ずっとここ5、6年同じような傾向なのですか。

(建設部)

大体同じような傾向になっています。業者数も変わらないものですから。

(岡田委員)

今おっしゃっていたことで新たな意見が出てくるんですけど、建築の中でもいろんな種類のものが混在しているのであれば、詳しく出して貰いたいという要望は大変なのかもしれないんですけど、電気とかそういう種類によってどんな違いがあるのかが1点と、もう一つ先ほどおっしゃったように札幌と地方の方では状況が違うというのであればその地域差みたいなものも多少グラフにさせていただくか、口頭で説明していただければ我々も意見が出しやすいような気がしました。以上です。

(大久保委員長)

できるんだったら、表で出して貰った方がより今の説明も受けて分かりやすいから。これはもう事務局にお願いすることではあると思うんだけど、次回以降、できたら、手間暇そんなにかからないのであればやっていただきたいと言うところですかね。

その他質問ありますか。それですね、何点か私の方からお聞きしたいのですが、参考資料の1ページの工事のところの条件付一般競争入札で土木が1件とか上がっているのですが、これは例の小樽の道路なんですかね。

(建設部)

それとはまた別の案件です。

(大久保委員長)

別ですか。

(建設部)

こちらの条件付きの案件につきましては札幌建設管理部で発注しております工事で、工事名が、道道恵庭栗山線馬追橋架替工事、橋梁の架け替え工事となります。5月7日に入札を行いまして、10月に26億1700万で契約したものとなっております。

(大久保委員長)

なるほど。小樽の方はもう終わったんですかね、あれは。

(建設部)

まだ施工中です。

(大久保委員長)

施工中。だけでも新たな発注とかは。

(建設部)

まだ3年くらいかかる予定です。

(大久保委員長)

あと3年。

(建設部)

去年含めて3年くらいかかる予定ですので、まだ来年以降も続くと思います。

(大久保委員長)

毎年発注するんですけど。

(建設部)

いえ違います。債務負担行為で。

(大久保委員長)

違うんですね。3年。

それから同じ参考資料のところで、2ページのところを見ますと下の方、振興局のその他という欄の胆振振興局で、制限付一般で、100%で落札したという工事が上がっているのですが、これはどんな工事だったのかおわかりになりますか。

(事務局：藤樫主事)

環境生活課で発注したものでして、支笏湖国立公園の歩道の改修工事になります。森林土木のもので、不落随契によって100%になったと聞いております。不落随契。入札で落ちなかったために、随意契約に移行して100%になったものになります。

(大久保委員長)

ああ、なるほど。そういうことですか。

それから今度4ページ目のですね、一番上の産業振興部というところの十勝振興局で、一般競争入札で、11件で落札率77.1%。落札率で、非常にこう、数字が低いんですが、これはひょっとして建築、先ほど委託で結構70%台というのがたくさんありましたけども、それに関連するものなんですか。

(農政部)

農政部でございます。これはですね、11件全て十勝管内における用地測量後の用地境界に石標を埋設する業務という形になりまして、この業務、境界杭を設置する単純作業の形になりますので、落札率が低くなったものということで、考えられています。

(大久保委員長)

それだけの業者でもできるから、誰でもできるものだから競争は働くということですか。

(農政部)

そうですね。まあ十勝っていう、そういう場所的なものもあるんですけども、十勝管内の特性という訳ではないんですけど。

(大久保委員長)

もう少し、そのところを。

(農政部)

十勝管内結構ですね、落札率的に結構農政部では低い形でのものが多いことでもありますので、その辺も考えられてのことかなというふうには思っています。

(大久保委員長)

他の振興局から比べれば非常に昔から競争が働いているということですか。

(農政部)

そうですね。

(大久保委員長)

はい、分かりました。だいぶ、30分以上に渡って質疑応答があって私は大歓迎なんです。議事の1つ目はこれでよろしいですか。

(2) 令和5年度(2023年度)北海道入札監視委員会現地調査結果について

(大久保委員長)

次が2つ目の昨年度に実施しました、現地調査報告につきまして、事務局の方からまず説明をしていただけますか。

(事務局：藤樫主事)

かしこまりました。

それでは、令和5年度北海道入札監視委員会現地調査結果について、概要をご報告させていただきます。資料については資料の2になります。本年度の現地調査では、渡島総合振興局及び檜山振興局に加えて後志総合振興局において実施しました。

第1回目は、10月10日から11日にかけて、大久保委員長、清平委員に函館市まで足を運んでいただきまして、1日目は檜山振興局産業振興部農村振興課及び林務課の工事と委託について調査を行ったのち、2日目は渡島総合振興局農村振興課と、函館建設管理部の工事と委託について調査を行いました。主な論点としましては、漁港の機能保全工事や予防治山工事などについて、地域要件の設定の考え方や、総合評価における工事施工成績の反映について、また設計図書等の保管状況などを確認いたしました。

2ページ目の第2回につきましては、10月17日に、岡田委員と鈴木委員に小樽市まで足を運んでいただきまして、後志総合振興局農村振興課、林務課、また小樽建設管理部の工事及び委託業務について調査を行いました。後志での主な論点としましては、WTO案件のトンネル工事などについて、標準型総合評価における評価項目や、落札者の決定方法、総合評価による場合、よらない場合の考え方、道の履行経験を求める場合の新規参入の考え方について確認いたしました。

それぞれの調査時に各委員から契約手続等について質疑があり、いずれの調査におきましても、入札手続は適正に執行されていることが確認されました。説明は以上でございます。

(大久保委員長)

ありがとうございます。それでは現地調査に赴かれた委員の方から簡単な感想あるいは意見があれば、いただければと思います。そうしましたら、岡田委員はどうですか。

(岡田委員)

トンネル工事の見学は、貴重な経験になりましたが、現地調査の重要な意義は、紙の上で出てきた金額とか落札率とかそういったものではわからないことを見せてもらうことだと思います。実際に作業している方たちがどのくらいの人手で、技術的なことまでは分からないとしても、かなり高度な技術を使われているのかとか、斜面に杭をうてるようなところとかもを見せて貰ったんですけどどのくらいの広さで、何本くらい打つのかという具体的なものが、目で見て分かることは非常に重要なことだと改めて思った次第です。内容に関しては、質疑応答を現地でやらせていただいたので、特に無いんですけど、現地調査の重要性について改めて思ったという感想です。以上です。

(大久保委員長)

鈴木委員の方はどうですか。

(鈴木委員)

今お話ありましたように、トンネルの現場ということで非常に貴重な現場を見せていただきました。どうもありがとうございました。なかなか僕ら土木の人間でも見れないようなところだったと思います。私も非常に貴重な経験をさせてもらいました。私は専門が河川工学ですので、地盤とかそちらの方はあまり詳しくないんですけど、勉強させていただくことも含めて非常に面白いものを見せて貰ったというふうに思っております。議論の方は、大きいものから小さいものまで、色々あったというふうに思いますので、ここでは割愛させて貰いますが、1点だけ印象に残ったものを挙げさせていただくと、岡田先生の方から、一者入札の時にPRをされているのかというようなコメントが出まして、入札競争技術力、競争力というものはちゃんと上げていくという意味でその努力っていうのは改めて、して行かないといけないんだろかなと感じたところでございまして、そういうところを業者にどういうふうにPRして行って、どうやって入札してくる数を増やすのか、競争力、技術力を上げていくのかと、議論して行かないといけないんだろかなというふうに思った次第です。以上です。

(大久保委員長)

清平委員はいかがですか。

(清平委員)

自分の方は、函館と檜山の方見させていただいた。漁港の堤防の船着けるところを修復工事しているところを見させていただいたりとか、山の崩れたところ、崩れないように補強工事するところとか、見させていただいて、現地見てから審査というか書類を見させていただいた方が分かりやすいので、また違う視点で、現場で見た視点で質問できたりとかって言うのがあってよかったかなと思いました。あと檜山管内の話聞いてると、入札業者があんまりいないというのもあり、だんだん過疎じゃないけど入札するような業者がいなくて結構大変な状況になっているというような話も伺えたので、そういう地方の問題って言うのも、知ってきてよかったかなと思いました。以上です。

(大久保委員長)

私ですと、1日目檜山管内行った時に断崖絶壁と表現してもいいんじゃないか、80度くらいの角度のある住宅のすぐ裏の斜面の工事をされていたのですが、そこが崩落しないための工事をやっていたんですが、その工事をやる足場をこうやって組んでやるんですよとかっていう説明を受けて私から見ると良くこんなところで作業ができるなと、いうふうに思ったのですが現地の方の説明ですと、これは別に特殊な工法じゃありませんよ、ごくごく普通の工事ですよ。というお話をされて、すごいなと、日本の土木力っていうのはこれをもってして普通だということかというくらいに驚いたところがあります。

2日目は、古部漁港ですかね行ったのは。まず行って久々に海の匂いだなと感じ、私の田舎ほんとに小さな漁村なんで、目の前が漁港なもんですから海の匂いはいつも嗅いでいたんですがそれが久々に海の匂いを嗅いだなというのと、しみじみ見ると岸壁の高さが非常に高いんですね。私の方の太平洋側の港の岸壁ってこんな高さはあんまり無いよな、というようなお話を現地案内してくれた方にしたら、確かに渡島・檜山管内の漁港の岸壁の高さはかなり高いと思いますというようなことをお話になって、それだけ波が荒いということなのかなと思いつつながら、工事の場面を見させていただきました。やっぱり現地で見るとというのが、こういう書面でやるだけではやっぱり実際に想像しなさいといっても想像力に乏しい人間に取ってはですね、現地に行って見るっていうのが、それにしくはなしという感じは持ったというところでございます。

それでは、以上は終わりましたので、公開はここで終了ということで、退席をお願いし

て。

(事務局：小倉補佐)

抽出審議ですけれども、入札監視委員会運営要領第3の2において非公開と規定されておりますので、委員と関係部局の方を除きましてご退席いただきますようよろしくお願いいたします。今対象の所属と接続いたしますので、しばらくお待ちください。

(3) 抽出審議 留萌振興局留萌建設管理部発注案件（非公開）

留萌振興局留萌建設管理部発注工事3件について審議を行い、総合評価落札方式による落札者の決定基準や技術評価などについて、委員から質問があり、考え方などの説明を行った。